

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水興津の家 (1階)		
所在地	静岡県静岡市八木町町1846		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成31年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2274202114-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

興津川沿いにあり、山や海・緑もある自然豊かな場所にあります。
 近くには、遊歩道、公園もあり、春には桜の花も見られ、自然を満喫しながら散歩しています。
 楽団等のボランティアの訪問も積極的に受け入れており、利用者様には喜ばれています。
 将棋の大好きな利用者様と職員が毎日将棋を差し、勝ったことの喜びを分かち合い、利用者様と職員との絆を大切にしています。
 食事は、食材配達業者を採用し、栄養面・見栄えの良い調理を職員が作っています、利用者様には大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は8割方、職員も会議に出席する日勤者のみでは5割が男性となり、「女性利用者と女性職員の気持ちに応えた運営となっているか」が、管理者の目の前の課題として挙がっています。また利用者の中には、キツイ言葉や暴力的な態度がでしてしまう人もいて、その点についての他利用者や職員のストレスケアにもあたっています。管理者の危惧はそれとして、外部者から見るとパートタイマー職には女性が多いこともあって和やかな雰囲気が見られ、総じて穏やかかです。また本年は外出支援に力を入れており、今月はおにぎり持参で日本平動物園、来月は寿司の夕食を予定していて、利用者の楽しみが増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしい、ありのままに」を入りに提示し、毎日その実践に向けて行動して、努力しています。	事業所理念「その人らしく ありのままに」について、職員の具体的行動として「無理強いしない」があり、管理者からは「(利用者の)自由でいいですよ」ということを繰り返し伝えていきます。そのため、職員からも理念に沿った発言があります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入して、地域の催しに、できる範囲で参加させて頂いています。	新興住宅ということもあり、これまでは親交の進捗がはかばかしくなかったのですが、近年は「声かけ」を意識したことで知り合いが増えていきます。植栽のことや前職の共通話材で会話を持つに至り、側溝掃除や防災訓練、盆踊りにも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報等を考慮し、出来る範囲で高齢者に貢献できる事がないかを話しあっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一回のペースで実施してしています。その都度アドバイスを頂き参考にしています。	自治会長と民生委員3名が核となり、また地域包括支援センターからは介護支援専門員兼看護師が出席くださり、顔ぶれが豊富な会議運営が叶っています。毎回利用者の事例紹介がおこなわれ、メンバー間の事業所理解が深まっていることが書面から視えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者を積極的に受け入れ、手続等で相談にのって頂き、良好な関係を維持しています。	市役所介護保険課からは年1回は運営推進会議へ出向いてもらえ、事業所も議事録を窓口へ直に届けています。また生活保護受給者が7割となり、生活支援課の職員が、多い時は月3回訪問ということもあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ施錠、居室の鍵は利用者様の意思に任せてあります。職員が鍵をすることはありません。	身体的拘束適正化検討委員会を設置しています。すでに2回の会議運営を終え、11月に第3回を予定しています。法人主導の年間研修にも位置付けられているほか、強い口調や暴力的な態度の利用者には痛み(心の)を職員間で分かち合う場も設けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、本部から提供されるAA課程の資料を元に勉強会を開き、話しあっています。出席できない職員もその資料には必ず目を通し、防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者様2名成年後見人を活用しています。今後も利用者様の要望があれば活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約書・重要事項などご家族に、丁寧に分かりやすく説明して理解してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られたとき際、利用者様の日頃の様子を報告しご家族の意見、要望を聞き取る努力をしています。	家族がいる人が余りないことから面会者も比例して少ないものの、訪れた人は管理者や職員と密に話し合っており、面会がない人にも『くろおばあ通信』で運営状況を知ってもらえています。また利用者の内2名は運営推進会議に積極的に参加しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行い、職員同士意見交換の場を設けています。また、運営地域アドバイザーが2カ月に一度参加し、意見交換をしています。	「職員会議は3ヶ月に1回を目安に必要なに応じて～」と、法人の方針がでていますが、当事業所では変わらず毎月実施して、相互理解を深めています。利用者は8割方、職員も会議に出席する日勤者のみでみていくと5割が男性で、そこから生じるデメリットについても話し合っています。	「女性だったらどう思う?」「どう考える?」と、女性サイドにたつた考え方を促してみよう等、今後のアプローチを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働生産改善委員会をもうけ、職員の提案を重視し、各自が向上心をもって働けるように職場環境・条件に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の更なるレベルアップ研修は、もとより法人外研修の参加できる機会をもうけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と方々との情報交換の場を設けるよう努力しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する時点で、本人が困っていること、不安なことの要望を聞き入れ本人が安心を保つよう良い関係づくり努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する時点で、家族などが困っていること、不安なことなどの要望を聞き入れてより良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設への入居時に、今までの生活状況入居動機、既往症等の情報を基に、本人とご家族に喜ばれるサービスを提供するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用茶様の出来る範囲の情報収集をし、利用者様の思いに添えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日生活での変化や受診時の結果などを報告し、面会時に日常生活の様子伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様本人より、「家族に会いたい」という訴えがあれば、ご家族に連絡し面会に来て頂けるように努めています。	将棋とオセロに夢中人人には職員が相手となっていますが、今後は同法人の他事業所の利用者との対戦が企画されています。面会時間を定めてはませんが、朝9時頃から夕食前あたりまでに来所する人が大半で、珍しい例としては狩猟仲間だったという知人の面会もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で一人で過ごす時間をなるべくなくすよう、レクリエーションなどに参加		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活の様子、行事、病院の受診結果などを、ご家族に報告して安心してもらうように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションをとり利用者様の思いや希望を聞き入れ、出来るだけ意向に添えるように努めています。	散歩などマンツーマンとなる時にいろんな話をされていて、意向が拾える機会をつくっています。以前は煙草、コカ・コーラ等、嗜好の趣味があった利用者もいましたが、現在は欲しいということはなく、健康的に過ごしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族から情報を提供して頂き、利用者様の思い、希望を取り入れ、できる限り意向に添えるように、努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の各々で、できる仕事を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやプラン変更の際はカンファレンス通じて、職員同士が話し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画書の短期目標は日々記入する介護記録に示され、「できた」「できない」を職員が意識できるとともに現場と連動する仕組みがあります。バルーンや透析の人もいるため、介護計画書の作成には洗浄などの衛生面についても留意があることを確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の体調の変化や気づきなどは、介護記録・申し送りノートなどで職員間で情報を共有し、活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議、職員会議、地域との交流等での情報を活用しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が歩んできた今までの人生に思いをよせ、一人ひとり個別のケアを心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診、体調の急変、異変がおこった際はすぐ連絡して指示仰ぐようにしています。	透析の人以外は全員事業所の協力医に変更しています。医師はユニット毎に月1回、来所は合計で2回となっていて、看護師は週1回訪れて健康管理のフォローをしてくださっています。また記録はカルテに残し、共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の様子を伝え身体面だけでなく精神面においても相談し受診するようアドバイスしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院とまめに連絡を取り経過確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度か終末期のケアを体験してきたので早いうちから家族の同意をとり、その時が現実にならなると速やかに関係各所と連絡とり支援しています。	此処2年で10名近くの看取りをおこない、職員の中には「看取りは介護の一環」としての自負が育っており、事業所としても看取り加算をとることも視野に入れて書面など整備しています。緊急時対応及び延命治療については未着手です。	緊急時対応及び延命治療については、早めに家族の意向を確認して、できれば書面で合意することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を行い知識を高め、事故発生時2人以上で対応する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練と部分訓練数回を行いいざという時に備えている、地域の防災訓練にも参加しています。	ハザードマップの情報から浸水の場合0.5m未満と確認していますが、川が氾濫した場合は2階に速やかに避難することを決めており、運営推進会議でも発表しています。防災訓練は法定訓練のほか浸水を加えて年3回おこない、備蓄もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみになってなれなれしくならないように、言葉づかいは慎み、あまり丁寧過ぎないよう距離感を意識して対応しています。	「もう少し野菜食べられたらいいね」「まだ残っていたね」と、本人の箸が進むよう声掛けしたり、立ち上がりにもスッと支える手がでていて、総じて丁寧に優しいケアサービスがおこなわれていること視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表せない思い感じとり、表出できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルールだからダメと頭から否定せず、希望に沿うよう話合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理美容を利用、季節にそぐわない服をきてしまう者様には気分を害さないよう声掛けしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材配達業者のメニューをアレンジしてみんなが好きなカレーにしたり、オリジナル丼を作ったり工夫をこらしています。下膳は利用者様が率先して行っています。	誤嚥を防ぐ体操は必要に応じて個別に実施しています。ユニットで職員のシフトも定まり、1階は業者の加工品(冷凍品など)を使用していますが、2階は「すべて手作りしたい」として別々の献立です。行事食も取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配達業者の献立なので栄養面、バランスはとれています。 一人ひとりの状態に応じ刻み、ミキサー食にしたり対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える利用者様には、声掛け見守りを行い、介助の必要な利用者様には介助を職員が口腔ケアを行い清潔維持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者様の個々の排泄サイクルなど把握に努めています。必要に応じて、声掛け、誘導、パット交換などの支援をしています。	排泄チェック表をつけ、パットの消費量を減らすことにも成功しています。月4万から1万へと減額できた例もあり、家族の経済的支援ともなっており、喜ばれています。便秘対策に食事や運動などをおこなってききましたが、効果が薄いこともあって、現在は薬に頼っている面は否めません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分摂取や食物せんいのある野菜を取り入れたり、体を動かすことなど働きかけています。重度の場合、医師と相談するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週4回実施しており、入浴前にバイタル、体調チェックを行い、体調不良、入浴拒否される利用者様には、無理に勧めず、日を改めて行っています。状態により清拭したり、夏場はシャワー浴にしています。	「週3日は入浴する」との目安をもっていますが、「毎日はいりたい」人はなく、拒否には職員が「ちょっと私とご一緒いただけますか」等と誘って、段階を追ってその気になってもらっています。また近所の農家でもらった蜜柑を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や状況に応じて、利用者様の衣服、布団を取り替えたり、居室、ホールの室温調節や換気を行い、一日を通して快適に安眠、休憩できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個々の常用薬については、全職員が理解、把握しています。誤薬を防止するため、服薬時のルールで定めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗たく物たたみなど、日常の家事に、できる限り参加して頂いたり、レクリエーションなどで、喜びや、楽しみのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じて頂くため、天候や個々状態を考慮し、散歩や外気浴を支援しています。また、利用者様より外出の希望があれば家族と相談の上、出かけて頂いています。	散歩は天候が良ければでており、ミニドライブは管理者が「(歩けない人を気にして公平にしないでいいと)出かけよう～」と奨励しています。今月は日本平動物園にでかけ、来月は寿司職人だった人を中心としたリクエストで「ドリームプラザの寿司横丁へ」との企画が進められています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金の管理は、施設が行っており、要望により職員が同行して、買い物に出掛けたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より、電話での連絡をしたいと要望があれば、ご家族と相談し、本人自ら電話して会話が楽しめるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなど共同スペースには、室温の管理など配慮し、よしずやカーテンを活用しています。また、毎月作成した掲示物や地区の小中学生の手紙を掲示するなど、生活感のある空間作りに努めています。	ハロウインの装飾も愉しげに踊っていて、居場所づくりとしてのソファも置かれています。傷みが目立つ箇所もありますが、建物のオーナーが建設関係とのことで、「任せて」と無償で修繕くださるとのこと、その点は安心です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個々の性格や個性、人間関係を考慮し、ホールでは、それぞれ思い思いに過ごせるようになっております。居室においては、プライバシーなれる空間になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように、毎日居室を清潔にする他、本人、ご家族と相談し、使い慣れた生活用品を使って頂き、可能な限り、自宅と同様な生活ができるよう配慮しています。	洗面台とカーテン付のクローゼットが備わった居室にはそれぞれが思いおもいのモノを持ち込んでいます。洋服のハンガーラックに好みの衣類を並べ、毎朝選ぶのを楽しみにしている女性利用者の居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、家事の参加など、自分で行える事は、できるだけ自分で行って頂くようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 清水興津の家 (2階)		
所在地	静岡県静岡市八木町町1846		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成31年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2274202114-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

興津川沿いにあり、山や海・緑もある自然豊かな場所にあります。近くには、遊歩道・公園もあり、春には桜の花も見られ、自然を満喫しながら散歩しています。楽団等のボランティアの訪問も積極的に受け入れており、利用者様には喜ばれています。食事は、食材を職員が調達し、利用者様好みの調理を職員が作っています。利用者様には、好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は8割方、職員も会議に出席する日勤者のみでは5割が男性となり、「女性利用者と女性職員の気持ちに応えた運営となっているか」が、管理者の目の前の課題として挙がっています。また利用者の中には、キツイ言葉や暴力的な態度がでしてしまう人もいて、その点についての他利用者や職員のストレスケアにもあたっています。管理者の危惧はそれとして、外部者から見るとパートタイマー職には女性が多いこともあって和やかな雰囲気が見られ、総じて穏やかかです。また本年は外出支援に力を入れており、今月はおにぎり持参で日本平動物園、来月は寿司の夕食を予定していて、利用者の楽しみが増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい、ありのままに」という理念を掲げ、地域の方々、ご家族と良好な関係をきずきながら、実践に向けて日々努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、運動会・盆踊り・防災訓練などに出来るだけ参加できるように支援しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報 を考慮し、できる範囲で高齢者に貢献できる事がないのか、話しあっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回のペースで実施しています。その都度アドバイスを頂き参考にしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者を積極的に受け入れ、手続等で相談にのって頂き、良好な関係を維持しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、居室の鍵は利用者様の意思に任せてあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、本部から提供されるAA課程の資料を元に勉強会を開き、話しあっています。出席できない職員もその資料には必ず目を通し、防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議などで、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について話し合う機会を設け、職員全員が理解したうえでそれら活用できるよう取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書や重要事項説明書について具体的に分かりやすく説明することで、利用者様やそのご家族に安心利用していただくように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やその家族が意見、要望を遠慮せず伝えられるような関係作りに努めると共に、不満や苦情があった場合はすぐに管理者に報告し、速やかに改善できる取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度職員会議をおこない、職員同士が意見を言える場を設けています。又運営地域アドバイザーにも2か月に一度参加しもらい意見交換しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働生産性改善委員会をもうけ、職員の提案等を重視し、各自が向上心を持って働ける職場環境・条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の更なるレベルアップ集中研修はもとより、社外研修の参加できる機会をもうけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の方々と情報交換の場を設けるよう努力しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	帰宅願望のある利用者様また、買い物に行つてこようと思うなどの外出願望が見られる利用者様に対しては、不穩に陥ることがないように声掛けたり、職員と散歩に出かける等をして気分転換してもらうように心掛けします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに普段の様子、(健康状態等)を伝え、家族の不安を取り除いてあげるよう心がけています。また、利用者様とご家族の話しやすい時間を作っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用するあたり、本人とご家族との情報を見極め必要なサービスの利用に対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみや食器の下膳など、利用者様同士でできること、できないことをお互いに協力しあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来た時には、普段の様子や往診時の事などを報告し、利用者様が安心して生活ができるよう、ご家族と共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人、友人が面会に来た時には、じっくりと話をすることが、できるような、雰囲気作り心掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流ができるよう、洗濯ものたたみ等に参加するよう声掛けをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日々の生活の様子や体調変化など、その都度お話しし、安心していただけるようつとめています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを受け止め、尊重し、できるだけ本人の希望に添った生活が送れるように支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族より、これまでの生活状況や生活習慣などを出来るだけ詳しくヒアリングし、今後の生活に繋げるよう努めています。う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく、安心して暮らしていただけるよう、日々の体調変化や気持ちに配慮しながら、本人のできる事を毎日の役割として行っていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に話し合いの場を設け、利用者様の日々の様子や生活するうえでの問題点を把握し、介護計画を作成することでより良いケアを目指しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の生活の様子は、できるだけ詳しく記録し、職員全員で共有・話し合いをすることで今後の介護計画の立て直しや対応に取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議や、職員会議などから多様な意見を検討し、取り入れ、常により良いサービスを提供できるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の利用者様の生活・介護度などを把握して支援しています。カラオケ、レクリエーションに参加して楽しみのある生活ができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診、体調の急変の際、速やかに連絡して、指示をお仰ぐようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問の際、各々の利用者様の日常生活での情報や気づきを伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院とこまめに連絡をとり合い、利用者様の状態、経過の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にホームとして、できる事とできない事を家族に伝え、了解して頂いています。終末期の看取り体制は終始連絡を取れる体制を作っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きた際は、事故報告書を作成し、同じ事故が起きないように話し合いをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をおこない、災害時に備えています。また、地域主催の防災訓練にも参加しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は家族での入浴とかわらぬよう一人ひとりがゆっくりと入浴できるよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	天気の良い日に散歩や外気浴に誘ったときは、利用者様本人が自己決定ができるよう本人の希望で参加できるようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や着替えの時など、一人ひとりのペースにあわせた声掛けができるように心がけている。。また、排泄時の声掛けが必要利用者様にたいしては日々の排泄チェック表を確認し声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や起床時の着替えの際には、利用者様がそれぞれの季節に合った衣類を選択ができ、着替えができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の希望に応じ、スプーンまたは箸を提供している。食材も各利用者様の食べやすい大きさにして、食事をして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい大きさ、柔らかさに気をつけて食べて頂いています。10時、15時に水分補給の時間をもうけ、飲み物を飲んで頂けるように声掛けを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に口腔ケアの声掛け、見守りを行っています。また、入れ歯、うがいを行うよう声掛けし清潔を保っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄量や間隔を把握しています。排泄の訴えの少ない利用者様については、職員が声掛けすることにより、トイレ誘導、介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により、排便チェックを行い、便秘の原因を追究します。水分摂取、食事等の対応について、常に職員間で話し合うことにしています。また、利用者様の状態を伝え、医師や看護師に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、入浴を行っています。入居拒否される方については、希望に応じて、入居日以外にも入居できるように配慮しております。体調のすぐれない利用者様については、清拭をおこなっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く眠れるように居室の換気や室温調整等を配慮しています。季節を考え、布団、上着への対応も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状態を理解すると共に薬に必ず目を通し、把握するよう心掛けています。薬についての疑問点など医師に、往診儀に相談して指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族と同じ生活をして頂くように洗ものの物をたたみ等、出来る範囲で手伝って頂いています。女性の利用者様には、食事のメニューと一緒に考えていくこともあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温も意識し近隣の散歩、外気浴を行っています。ご家族の方との外出も行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお小遣いは施設で管理してしています。利用者様が買い物をしたいとの要望があれば、職員が同行して出来る範囲での買い物をするようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より、「電話をしたい」との訴えがあれば、管理者がご家族に連絡してやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって様々な行事を行っています。職員と利用者様とで案を出し合い、時期を感じる掲示物を作って共用スペースはカーテンやよしに温度管理や採光に気がつかっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、個人のプライバシーを守っています。フロアにはソファを設置し、利用者同士が気軽に過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーテン、洗面、エアコン、ベッド、クローゼットが備え付けあり、毎日清掃を行っています。 自宅と同じようにすごして頂くように、入居際は、利用者様が、使い慣れた生活用品を持ち込んで頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりのできること職員が把握し、できるだけ自分のできる事は自分で行って頂いています。 ペースも各個人にあったペースで行っています。		